

中学1年 学年通信『110回生“心”』 Vol.3

中学1年担任一同

活動プログラム & 大なわ跳び

4月15日から初めての教科担任制での授業が始まりました。慣れない環境の中で新しいことの連続でしたが、子どもたちは少しずつ中学生らしくなってきました。例年はゴールデンウィーク前に2泊3日の合宿訓練へ出かけるのですが、今年度は新型コロナの影響で早々に中止が決定されました。そこで、「仲間づくり」を目的とした別の活動ができないかと検討した結果、神戸市北区で巨大アスレチック「ソラカケル」を運営されている有限会社ソウルメイト様のプログラムを本校の人工芝グラウンドで体験することにしました。

19日(月)、暖かい春の日差しが感じられる晴天に恵まれ、体験プログラム当日を迎えることができました。子どもたちも教室での座学ではないからか、いつも以上に元気な様子での登校でした。奇数クラスは午前中が体験プログラム、偶数クラスは午後が体験プログラムでした。各クラスを2つのグループに分け、約20名のグループをファシリテーターさんに担当していただきました。各グループとも、工夫を凝らしたアイスブレイクの自己紹介からスタートし、様々なことにチャレンジをしながらグループで課題を解決していました。フラフープを使って活動するグループやボールを使うグループなど出された条件の中でいかに早く確実にミッションをこなすためにはどのようにしたら良いかなどを話し合ったりしていました。どのグループも最後はクラス単位での活動を行いました。クラス全員で一つのことにチャレンジをするので、なかなか成功までたどり着けませんが、どのクラスも今後の課題が見つかった貴重な3時間でした。

奇数クラスの午後、偶数クラスの午前は体育館で大なわ跳びを行いました。体験プログラムと同じ約20名のグループで一斉に跳び、回数を競いました。最初の1時間ほどは気持ちが一つにならず、なかなか回数を重ねることができませんでした。しかし、ひっかかった人を責めたりすることなく、徐々に回し方や並び方を話し合えるようになった結果、連続して跳べる回数が増えていきました。前日までは職員室で「子どもたちが工夫してがんばる姿を見守る」と話していたクラス担任も時間がたつごとに熱くなり、大きな声でクラスを盛り上げていました。時間の最後には多くのグループが10回以上跳ぶことができ、子どもたちは疲れたなかにも達成感を味わっていたように感じました。

かなり天気がよいなかでの午前3時間、午後3時間の活動でしたのでほんのりと日焼けし、少し疲れた表情も見られましたが、新しい人間関係の構築や他者への理解・自己の分析など充実した中学生を送るうえで必要なことを学べた一日でした。

授業が本格的に開始されましたが、帰宅後の子どもたちの様子はいかがでしょう？多くの科目で復習のための宿題が課されています。学習内容の定着を図るため、宿題は欠かせません。授業では「わかった」つもりでも、家でやると「できない」ことはあります。「わかる」を「できる」に変えるためにも家庭学習の習慣をつけていただきますようお願いします。入学当初の「スクールダイアリー」の活用について、のホームルームでも「起床時間・学習開始時間・就寝時間」を決めて生活する、いわゆる「3点固定」を意識して規則正しく生活するように伝えています。今後とも子どもたちの様子を見守っていただきますようお願い申し上げます。

